

＜特別研究会報告要旨＞

(2月15日)

アジア NICs の産業リンケージ構造 の変化

——マレーシア，韓国，
台湾のケース——

(韓国 Chung-Ang 大学)

安 忠 榮

この研究の目的は、自然資源の豊富な国と
その希少な国が急速な工業化を経験する場合
の、産業間のリンケージ構造の変化の比較
を、産業連関分析により行うことである。

このために資源が豊富な国としてはマレー
シアを、希少な国としては韓国と台湾を選ん
だ。

これらの国々は経済発展の戦略として輸出
志向型の工業化政策をとってきたが、そのた
めの具体的戦略としては、マレーシアはとく
に外国の直接投資を利用するもの、韓国は対
外借款を利用するもの、台湾は前2者の中間
ともいえるものであった。

マレーシアの外国の直接投資を利用する方
法は1980年代中期の急速な経済成長の契機
になった。このマレーシアの戦略は台湾の中
小企業を発展させる戦略や韓国の大企業育成
策に匹敵するほどの成功を治めた。さらにマ
レーシアは日本の“系列システム”などをも
取り入れた。

これら3ヵ国の自然資源賦存状況の相違と
発展戦略の差異は各国の産業のリンケージ構
造に著しい差異をもたらすのかという疑問が
あげられる。

産業連関分析によりマレーシア、韓国およ
び台湾の産業間のリンケージおよび“リーケ
イジ (leakage)”の構造変化の国際比較が
1970年代中期と1980年代初期を対象にして
行われた。

その結果、自然資源賦存状況や1人当り国
民所得および経済発展戦略などの違いにもか
かわらず、これらの国のリンケージ構造は似
通っており、とくに製造業において、非常に
似通ったものであることが判明した。さらに
特定の国のリンケージ構造は短期間において
はより似通ったものとなっていることもわ
かった。これらのファインディングスは、産
業連関分析を使用した過去の著名な同分野の
研究成果と整合的なものである。

しかしながら“リーケイジ”の構造は対象
とした3ヵ国でかなり異なるものであった。

(文責・明石光一郎)